ブータン医科大学の学長より、本学の学長あてにMOUの更新について承認をお願いする書状が届きました

ブータン医科大学長
Kinzang P.Tshering 先生より

京都大学
山極 壽一 総長

2017年1月12日

ブータン医科大学より、2017年の新年のご挨拶を心よりお祝い申し上げます。

この文書は、京都大学医学部附属病院と本医科大学の附属であるJigme Dorji Wangchuk 国立病院間の連携に対し、京都大学へ感謝の意を表するものでございます。

京都大学医学部附属病院とブータン医科大学は、2013年10月29日に正式に覚書を調印しました。京大病院は、ブータン王国で最初に設立された医科大学である本学が、初めて協定を結んだ機関です。この協定を通じ、京大病院から異なる専門分野を持った多くの医師や看護師がブータンを訪問し、本学附属病院の様々な診療科にて活動してくださいました。貴院の医師や看護師は、私どもの患者の診療にあたりながら、専門知識や技術をブータンの医師、研修医、看護師にご教授くださいました。日本の仕事文化や職業意識がブータンの医療従事者に吹き込まれることも大変有益なことでありました。貴院でブータンの整形外科医が脊椎手術について研修を受ける機会をいただき、ブータン国内で脊椎手術を行うことができるようになり、患者を治療のために海外に搬送する必要がなくなりました。

京都大学医学部附属病院の医療チームには、当院の医療従事者とともにチームとして活動いただき、貴院のスタッフの支援がなければ海外搬送していたような複雑な症例にも、対処いただきました。当院の内視鏡部門は、貴院の専門医による技術指導により、目覚ましい改善がみられました。貴院の医師や看護師におかれましても、ブータンでの活動は良い経験となったのではないかと思っております。

私どもは、本学出版の Bhutan Health JournalにInternational Editorsの一人として、京都大学医学部附属病院より岡島准教授をお迎えでき、大変光栄に存じます。先生にエディターとして貢献いただくことによって、私どものジャーナルがより価値あるものとなり、学術面においても交流が促進されることを大変期待しています。

私ども、ブータン医科大学はこの関係が非常に価値のあるものと考えており、貴院との連携を継続していけるよう、覚書の更新を心待ちにしております。

貴学の寛大なご協力をお願い申し上げます。

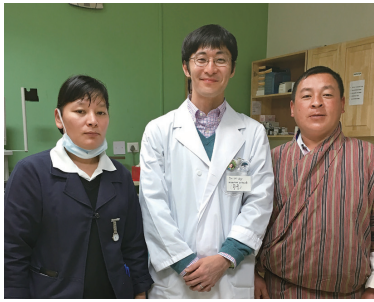
■ 本事業に関するお問い合わせ先
京都大学医学部附属病院 総務課　秘書・広報掛
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
E-mail：bhutanku@kuhp.kyoto-u.ac.jp
HP：http://kuhp.kyoto-u.ac.jp/outline/international.html

ブータンの医療支援の活動を発信していきます。
「いいね！」お待ちしております。
ページ名：京大病院ブータン医療交流プロジェクト
URL：https://www.facebook.com/kuhpbhutan

VEGETABLE OIL INK
ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004514

2013年10月～2016年3月

ブータン王国
医療交流事業
報告書



京都大学医学部附属病院
KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL

当院では、2013年10月にブータン王国保健省及び
ブータン医科大学と本院との3者で医療交流に関する覚書を締結し、
医師、看護師、技師、栄養士などの医療スタッフをブータン王国の
基幹病院であるジグミ・ドルジ・ワンチュク国立病院（以下、JDW病院）に派遣し
医療支援、国際交流を行っています。

ブータン王国の医療状況

ブータン国内には、ブータン医科大学が設立されていますが、現在、看護・公衆衛生学部、伝統医薬学部のみが設立されており、医師を志す者は、外国で医学教育を受けなければなりません。ブータンで医学部が設立できない要因の一つとして、ブータンの医師不足が深刻で、教員として働ける医師が足りていないことが挙げられます。2015年時点でのブータン国内の医師は251名、人口1万人当たり3.3名で、日本の1万人あたり約23名と比べても少ない状況です。
ブータンでは、外国の医学部で教育を受けた若い医師が、ブータン国内で初期研修を終了後、専門医研修を受けるために、再度海外に出る必要があり、中堅医師の不足につながっています。
そこで、ブータン政府は、医師を増やすためには、まず、専門医研修プログラムを確立させ、ブータン国内で専門医を養成し、若手医師が海外に流出することを食い止めることが先決であるとしています。

医療交流事業の目的

JDW病院に京大病院の医師を派遣し、現地で臨床活動を行いながら、ブータンの医療環境に応じた「専門医研修プログラム」の作成補助、助言を行うことが本事業の目的です。

派遣実績（※短期派遣を除く）

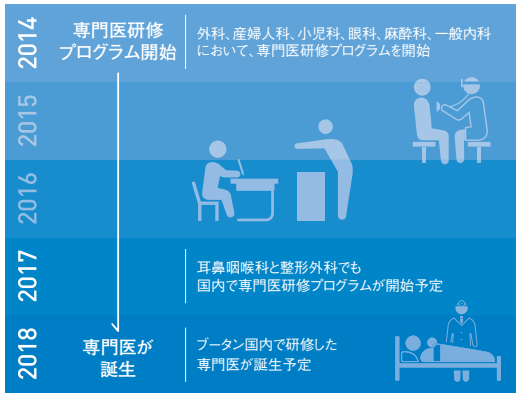
- 第1陣　平成25年10月27日～平成26年1月25日（肝胆膵・移植外科　医師2名、看護師2名）
- 第2陣　平成26年1月19日～平成26年4月14日（消化管外科　医師1名、消化器内科　医師1名、看護師2名）
- 第3陣　平成26年6月30日～平成26年10月2日（消化器内科　医師3名、泌尿器科　医師1名、看護師2名）
- 第4陣　平成26年9月16日～平成26年12月30日（腎臓内科　医師2名、小児科　医師2名、看護師1名）
- 第5陣　平成26年12月15日～平成27年3月13日（循環器内科　医師2名、整形外科　医師1名、看護師2名）
- 第6陣　平成27年9月6日～平成27年12月1日（初期診療・救急科　医師3名、放射線部　医師2名、看護師2名）
- 第7陣　平成28年1月8日～平成28年3月11日（病理診断科　医師・技師各1名、検査部　技師1名、耳鼻咽喉科　医師3名、感染制御部　医師1名、呼吸器内科　医師2名）

受入実績

- 整形外科　平成27年9月28日～平成28年3月25日（医師1名）
- 腎臓内科　平成28年2月11日～平成28年2月21日（医師1名、看護師3名）

専門医研修プログラムの現状と事業成果

ブータン医科大学では、2014年より、外科、産婦人科、小児科、眼科、麻酔科、一般内科において、専門医研修プログラムを開始しています。このプログラムの応募資格は、インドなど海外で医学部を卒業後、首都ティンプーや地方の医療施設で初期研修を終えた者です。現在、各学年6、7名が国内で、専門医研修プログラムを受講しています。専門医研修プログラムでは、病院での臨床研修だけでなく、1年目に研究テーマを決め、論文も執筆し、修了時に学位（Doctor of Medicine）が授与されます。
専門医研修プログラムは4年間のプログラムであるため、2018年には、ブータン国内で研修した専門医が誕生することになります。まだ、専門医研修プログラムができていない診療科については、今も海外で研修を受けています。2017年には、京大病院から医師の派遣実績がある耳鼻咽喉科と整形外科でも国内で専門医研修プログラムが開始される予定で、ブータン国内の専門医研修プログラムは徐々に充実しつつあります。



今後の展望

2016年12月に、稲垣病院長がブータンの保健省、ブータン医科大学、JDW病院を表敬訪問し、今後も、事業を継続していくことを確認しました。
ブータンは、社会経済開発を1961年より5か年計画の枠組で進めており、現在、2013年から開始された第11次計画が進行中ですが、医学部設立については、第12次計画（2018年～）の中に盛り込むことが予定されています。医学部設立に向けて、ブータン側のニーズを確認しながら、京大病院からの医師派遣を通して、専門医のブータン国内養成に貢献してまいりたいと考えています。
2015年11月より、ブータン医科大学が、ブータンで初めての査読付き医療ジャーナルとなる“Bhutan Health Journal”の刊行を開始し、当院のブータン医療交流小委員会委員長の岡島英明准教授（肝胆膵・移植外科）がジャーナルのinternational editorに選ばれました。また、2015年11月より、ブータン医科大学が主催する学会“International Conference on Medical and Health Sciences”も開催されています。京大病院から医師を派遣し、臨床活動だけでなく研究面でも協調していきながら、京大病院ならではの医療交流を進めていきたいと思います。

（左）ブータン保健省　Tandin Wangchuk大臣
（右）京都大学医学部附属病院　稲垣暢也病院長